

国際協力の取り組みについて

1 アフリカの廃棄物管理向上への協力

平成29年4月、環境省・JICA・横浜市がアフリカ24か国等と共同で、アフリカの廃棄物問題の解決に向けた「アフリカのきれいな街プラットフォーム」を設立しました。

横浜市は、日本の自治体として唯一このプラットフォームに参加しており、本市の廃棄物管理のノウハウや先進的な技術をもとに、研修を担うこととなりました。この研修は、第7回アフリカ開発会議が開催される平成31年度まで、毎年実施される予定です。

(1) 第1回研修概要

ア 対象者

アフリカ数か国の中央省庁及び主要都市の廃棄物管理部門責任者（局長クラス）
10名程度

イ 日程

平成30年1月末から3週間

ウ 主な内容

横浜市の廃棄物管理の講義、廃棄物処理施設の視察、学校訪問による子どもたちとの交流、民間企業とのビジネスマッチング等

エ 本市の準備

- ・当局施設の案内表示の多言語化、説明者のスキルアップなど
- ・廃棄物管理のプログラム作成
- ・市民・事業者との交流の場づくり

(2) 研修後のフォローアップ

- ・第7回アフリカ開発会議にあわせ、研修成果を発表できるよう国において、調整を進めています。
- ・アフリカを含む開発途上国・都市での廃棄物分野の支援に向けて、市内企業との情報共有・意見交換の場としての公民連携プラットフォームを構築します。

【参考】 アフリカのきれいな街プラットフォームの経緯

2016年8月	林市長が参加した第6回アフリカ開発会議(TICADVI)のJICAサイドイベント「廃棄物管理セミナー」で、アフリカの廃棄物管理向上のためのプラットフォームの必要性が確認される。
2017年3月15日	日・モザンビーク首脳会談の共同声明においてプラットフォーム設立に言及
4月12日	駐日アフリカ各国大使館(大使2名を含む16か国19名)が、本市の廃棄物処理施設を視察
4月25-27日	モザンビーク・マプト市でプラットフォーム設立会合が開催され、横浜市も参加。「マプト宣言」によりプラットフォームが設立される。
5月17日	モザンビーク・マプト市長が、本市の廃棄物処理施設を視察
8月24日	アフリカ開発会議 閣僚会合サイドイベント「アフリカのきれいな街プラットフォーム」で横浜市の取組を発表。
9月12日	コートジボワール・アビジャン自治区と横浜市が交流協力共同声明を発表。知事が本市廃棄物処理施設を視察。